



只見町ブナセンターだより

<季節のごあいさつ>

7月18日、只見町では、町内の観測史上最大の1時間当たり雨量88.5mmの猛烈な雨が降りました。6年前の平成23年新潟・福島豪雨災害のことが頭をよぎった方も多かったと思います。町内では、国道・県道の通行止めや床下浸水や土砂崩れによる家屋一部損壊などがありました。たくさんの方からご心配いただきましたこと、お礼申し上げます。また、全国各地で災害が発生しています。災害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

===== 開催中 =====

【特別企画展】

只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告

「只見の湿原－その生態と歴史」

会 期 2017年7月29日(土)～11月20日(月)

場 所 ただみ・ブナと川のミュージアム2階ギャラリー



只見町には、梁取の大曾根湿原(梁取湿原)や布沢太田の大谷地に代表されるように、比較的低標高地に湿原が見られます。こうした湿原には、その特異な環境を反映した植物群落(湿原植生)が形成され、湿地特有の希少な動植物の生育場所、生息場所となっています。

只見町全域および隣接する檜枝岐村の一部は2014年にユネスコのMAB計画の生物圏保存地域(国内呼称ユネスコエコパーク)に登録されました。この登録により、只見町の貴重な自然環境と生物多様性の保護・保全が義務づけられ、地域の財産としての湿原の重要性が認識されるようになりました。只見町では、この頃から、自然環境基礎調査の一環として町内全域の湿原の植生調査を実施してきました。また、只見町教育委員会では大曾根湿原と大谷地でボーリング調査を行い、そこから得られた花粉化石と植物遺体を調査し、湿原の形成過程と過去の周辺植生の復元に取り組みました。本企画展では、この二つの調査結果を中心に、只見町の湿原の生態や歴史についてパネルや現物展示により紹介します。

===== 今後の予定 =====

【ブナセンター講座】

「只見町の湿原－植生からみた多様性」

講師：菊地 賢 氏（森林総合研究所・主任研究員）

湿原は、その特異な環境を反映した湿原植生群落が形成されて希少な動植物の生息場所となっており、地域の生物相の多様性に大きく貢献しています。今回の講座では、自然環境基礎調査として実施した町内全域の湿原植生調査によって明らかになった、只見町の湿原の実態を解説していただきます。



▲講師の菊地 賢 氏

日程：2017年9月23日（土） 13時30分～15時30分

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

※ブナセンター講座の聴講には入館料が必要です。

【自然観察会】

「八十里越の化ケ物谷地に行こう！」

普段は通ることのできない八十里越（国道289号線）を通り、八十里越の明治新道脇に位置する化ケ物谷地で観察会を行います。観察会では、湿原の植生とその多様性を観察します。

日時：2017年9月24日（日） 9時00分～13時00分

集合：ただみ・ブナと川のミュージアム 8時45分

観察場所：入叶津 化ケ物谷地（八十里越）

参加費：1,000円（入館料、保険料、バス代を含む）

持ち物：雨具、長靴、飲み物、昼食

定員：27名（事前予約制）



▲化ケ物谷地

※自然観察会への参加申込、お問い合わせは只見町ブナセンターまでご連絡ください。

TEL.0241-72-8355 FAX.0241-72-8356

===== 活 動 報 告 =====

【春の自然観察会①】

「春植物の花園を歩く！」 5月3日（水・祝）

毎年恒例となった春植物の観察会ですが、今年の冬の積雪量は例年並みで、雪の残る黒谷林道沿いで観察となりました。春植物（スプリング・エフェメラル）は、雪解けとともに真っ先に花を咲かせ、夏には葉や茎が枯れて地上から姿を消し、その後は地下で過ごすような生態を持つ植物の総称です。フクジュソウ、カタクリなどが代表的です。こうした植物はかつては日本の広い地域で見ることが出来ましたが、環境破壊や人の手による採取などによりその姿を見ることも少なくなっていました。しかし、只見町ではこうした春植物を身近に見ることができます。今回の観察地の黒谷川林道には、フクジュソウの群生地がありません。雪解けの早い斜面上部のフクジュソウはすでに花は咲き終わり、果実をつけた地上部だけになっているものもありましたが、雪解けの遅い林道脇のフクジュソウは満開を迎えていました。他にもカタクリ、キクザキイチゲ、エゾエンゴサクの可憐な花々が彩りを添えていました。観察会には17名の方々に参加いただき、春植物の生態やその保全の重要性について解説を聞き、花々を写真に納め、観察するなどつかの間の只見町の春を満喫していただきました。



▲春植物を愛でる参加者

【春の自然観察会②】

「春のブナ林を歩く！」 5月4日（木・祝）

ブナ林の観察会には、県内外から22名の方にご参加いただきました。観察地の布沢の「癒しの森」は、只見町と隣接する金山町との境のある尾根筋にあり、遊歩道沿いにスギ・カラマツの人工林、コナラ・ミズナラの二次林、ブナ天然林を観察することができます。ブナは、おおむね1年おきに開花・種子生産を繰り返し、5～7年に一度豊作年（種子を大量に生産する年）があります。今年は、開花・結実の年にあたり、実際に、枝先に着いている花、あるいは残雪の上に落ちた花を観察することができました。また、ブナは開葉とともに開花します。残雪に映えるブナの若葉のライトグリーンの美しさにはため息がでてしまいます。ブナ林の林床ではエゾユズリハやツルシキミなど、日本海側を中心に分布する日本海要素植物を、戸板山眺めではオオイワウチワ、タムシバ、ムシカリの花など観察することができました。



▲国界の大ブナ前での集合写真

【組織運営】

「只見町ブナセンター運営委員会」 6月5日（月）

運営委員会は、只見町ブナセンターの運営の充実を目的とし、学校関係者や町内有識者、町外の専門家などの委員で組織されています。ブナセンター事業についてのご意見やアドバイスをいただく機会として年2回の会議を開催しています。

はじめに副町長より挨拶があり、運営委員会へ只見町ブナセンターの活動への期待を述べられました。また、今年度より前運営委員長の新国勇氏が只見町ブナセンター長に就任したことに伴い、只見町でユネスコスクールの認定を受けて3年経つ朝日小学校の校長小林義弘氏が運営委員長に新たに選任されました。議事は、平成29年度ブナセンターの組織について、平成28年度ただみ・ブナと川のミュージアム事業報告について、平成29年度ただみ・ブナと川のミュージアム事業計画（案）についてと進行了しました。過年度の事業、年間の入館者数についての一定の評価をいただいたほか、職員一人一人が目的と高い意識を持ち働いてほしいという要望、町外に出て大学生など潜在的な利用者に働きかけるといった提案、展示充実の方向性についてのご意見を頂きました。

【保護・保全活動①】

「只見町の野生動植物を保護する条例」の周知活動

人と自然との共生を実現するユネスコエコパークに登録された只見町では、その理念・目的を達成するために地域の自然環境や生物多様性の保護・保全に取り組むことが求められます。

只見町の一部地域では自然環境や生物多様性を守るための法的措置が十分に整備されておらず、事実、これまで一部の心無い人による町内での山野草の盗掘、夜間のライトトラップによる昆虫採集が報告され、町民からそれらに対応できる条件整備が求められてきました。そうした中で、平成28年、町内の野生動植物を守ることで、地域の持続可能な発展を目指す

ことを決意し、「只見町の野生動植物を保護する条例」を制定しました。条例では、町内に生育・生息する野生動植物の保護・保全を図るため、町の責務、町民・事業者及び来町者の責務、さらに野生動植物の捕獲や採取等の行為に関する遵守事項を規定しています。

只見町ブナセンターでは、町の境界や例年ライトトラップが行われる場所に条例を周知する横断幕を設置し、「自然首都・只見」の豊かな自然環境や生物多様性の保護・保全への理解と協力を呼びかけています。



▲条例を周知する横断幕
(六十里越道路沿い)

【保護・保全活動②】 コナラあがりこのナラ枯れ防除

只見町ブナセンターでは、今年度もナラ枯れの防除作業を行いました。

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌 *Raffaelea Quercivoria* (ラファエリア クエルシボーラ) によって生じるブナ科樹木の集団枯損被害です。ナラ菌はカシノナガキクイムシが餌とする菌と一緒に樹幹内に持ち込まれます。ナラ菌が繁殖することで、正常な組織が壊死し通水阻害を起こすことで木が枯れます。東北地方では、特にミズナラやコナラの大径木が枯れやすいとされています。

只見町には、あがりこ型樹形（地上3m付近から多数の幹を箒状に出している樹形）のコナラの巨木林が存在します。これらの木は、かつて地域住民が春先の堅雪のころに雪上でコナラの幹を伐採し、それを薪として利用し、その後再生してきた萌芽幹を繰り返し伐採、利用する中で形成されたものです。コナラのあがりこは全国的に珍しく、また、過去の地域住民と森林との関わりを今に伝える文化遺産とも言える存在です。このようなコナラにもナラ枯れの被害がでており、只見町ブナセンターでは、ユネスコエコパークの活動の一環として、あがりこ型樹形のコナラのナラ枯れ対策に取り組んでいます。具体的には、樹幹内でナラ菌が繁殖するのを防ぐために殺菌剤を樹木に注入する防除作業を行いました。樹木の幹の根張を避けて地上約30～50cm程の高さに、ドリルで幹回りに約12cm間隔で孔を開け、殺菌剤を注入します。1回の注入で2年の効果が期待できます。今年で6年目の作業となりましたが、これまで薬剤処理を行ってきたコナラの大部分はナラ枯れの被害を逃れることができています。



▲ドリルで穴をあける



▲殺菌剤の注入の様子

====その他のお知らせ====

【日本国内ユネスコエコパーク新規登録決定】

日本から生物圏保存地域への新規登録を申請していた「祖母（そば）・傾（かたむき）・大崩（おおくえ）」[大分県・宮崎県]と「みなかみ」[群馬県・新潟県]が、第29回人間と生物圏（MAB）計画国際調整理事会において、平成29年6月14日に登録が決定されました。この2ヶ所の新規登録により国内のユネスコエコパークは9カ所になりました。

【職員紹介】只見町ブナセンターの新しいスタッフを紹介します

山本 ^{ゆき} 柚季 (「自然首都・只見」学術調査専門員)



4月からブナセンターにお世話になっております山本柚季と申します。山口県出身です。この春、鳥取大学を卒業し、自然にかかわる職に就きたいと西日本からやってきました。只見に来てからあっという間に5か月が経ち、すっかり新しい生活に慣れてきましたが、まだまだ知らないことや訪れたことがない場所が多くあります。豊かな自然にたくさん触れながら只見について勉強しつつ、町のために尽力していきますので、みなさまどうぞよろしくお願い致します。

【只見町ブナセンター 2017年度の行事案内】

開催期間	行事名
7月29日(土) ～11月20日(月)	【特別企画展】 只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告 「只見の湿原－その生態と歴史」
9月23日(土)	【只見町ブナセンター講座】 「只見町の湿原－植生からみた多様性」
9月24日(日)	【自然観察会】 「八十里越の化ケ物谷地に行こう！」
11月25日(土) ～翌年6月25日(月)	【企画展】 「守りたい！只見の貴重な野生動植物たち～その保護と取り組み」(仮題)
2018年3月	【自然観察会】 「冬のブナ林観察会」

※行事情報は随時HPへ追加していきます。

<編集後記> ブナセンターだよりは発行を始めて8年目になります。これからも本紙を通して多くの方々に只見町ブナセンターの活動を知っていただけるように紙面の充実を図りたいと思います。今後とも只見町ブナセンターをよろしくお願いいたします。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時(最終受付は午後4時まで)

休館日：火曜日(祝祭日の場合は翌平日)、年末年始